

キヤノン株式会社

2019年第1四半期 決算説明会【主なQ&A要約】

- Q1.** 下期は会社全体で増収増益とのことだが、1Qの厳しい状況を踏まえてどのような戦略で実現していくのか、事業セグメント毎に教えて欲しい。
- A1.** 1Qは世界経済の低迷や事業環境の想定以上の悪化などにより、大幅な減収減益を余儀なくされた。下期は、世界経済が今よりも持ち直してくると想定していることに加えて、複合機、LBP、カメラなどでは上期から投入している、競争力ある新製品の効果が表れてくると考えている。また、メディカルは、1Qは一時的な理由により落ち込んだが、2Q以降は想定成長軌道に回帰する。露光装置や有機EL蒸着装置は、現在の受注状況からすると上期が業績の底であり、下期にかけては持ち直す計画である。このようにそれぞれの事業が持ち直すことで、全体として増収増益を達成する計画である。
- Q2.** 半導体や液晶露光装置などの産業機器は、足下では回復の兆候が現れている。直近の顧客の動向はどの程度まで織り込まれているのか。
- A2.** 受注が増える兆候はでてきている。最新の状況を加味して情報をアップデートしているため、現時点での最善の見積もりに基づいた業績予測の数値であるをご理解いただきたい。
- Q3.** 構造改革費用として200億円強、前回公表から経費を増やしているが、取り組む構造改革の内容を教えて欲しい。
- A3.** Eコマースの進展などを受けて販売の在り方が変わってきており、当社の販売体制もそうした時代に対応を図る必要があるため、今回、販売・サービスの大きな見直しを計画に織り込んだ。
- Q4.** フリーキャッシュフローを改善させるためには在庫を健全化する必要があると思うが、1Qの在庫は逆に増えている。適正化の時期は前回計画より遅れているのか。
- A4.** 1Qは、想定以上の市場縮小影響を受けたカメラの在庫が膨らんだ結果、適正化の時期は後ろにずれている。可能な限り早期の在庫適正化に向けて、生産調整などを行っていく。

キヤノン株式会社

2019年第1四半期 決算説明会【主なQ&A要約】

Q5. デジタル一眼レフカメラの販売台数見通しを引き下げの内訳を教えてください。

A5. カメラ台数の下方修正の中心は一眼レフのエントリークラスであり、ミラーレスカメラについてはほぼ修正していない。

Q6. 1QのLBP消耗品の落ち込みが12%と大きいですが、影響の大きい地域はどこか。また今後の回復の見込みについて教えてください。

A6. 1Qの落ち込みは欧州の影響が大きい。2Q以降は、新開発のトナーを搭載した新製品を発売する効果が徐々に表れ、純正消耗品の売上は安定していく見通しである。

本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。